

帰納的な学びで英語教育

先日、教育雑誌等の回覧が届いた。

いつもはゆっくり見るところを、急ぎの仕事があったので、今回はいそいで見て、次の人へ届けた。

上智大学吉田研作先生の記事だったから、小学校英語の記事があったと記憶している。

記事のタイトルは、「帰納的に学ぶ英語教育」だったかな？？

読んでいないので、何を書いてあるかわからない。

しかし、なんとなく書いてあることがわかるような気がするのである。もちろん全く違っているかもしれない。

小学校英語の早期化と教科化、特に教科化は、話す・聞くだけではなく、児童の読み・書きへの学びの興味があったからだとも聞いている。

英語活動から中学校英語への途中に位置するため、英作文やまとまりある文章の読みはいかほどのものか。

文部科学省は、小学校教諭に対して70時間分の指導計画を示している。しかし、担任が教えることが多いと思うので、意欲的な先生は、英語に関したいろいろなことを児童に教えてあげることができるだろう。時には中学校に内容や社会における英語の知識を教えてもいいのではないか。

もちろんその時はわからなくても、興味を持つ児童もいるだろうし、中学生や高校生になって帰納的に理解することもできるだろう。

私は、毎週末に読んでいるウィークリーを近くの小学校に届けている。

切って掲示物にしてもいいし、図書館に置いておいてもいい。先生にお任せしている。もちろん捨ててもらってもいい。

もしかしたら、将来、帰納的な学びで英語理解に加速度がはたらくこともあるだろう。

従来の常識を越えた様々な楽しい学びが起こるかもしれない。期待している。